

四旬節第2主日A

マタイ17・1-9

皆さん、今日は四旬節第2主日です。四旬節第2主日は、イエス・キリストのお姿が変わるといふご変容の記事が読まれます。イエスの変容の物語は、マタイ・マルコ・ルカの福音書に記されていますが、少しずつ描く内容が異なっています。比べながら読んでみましょう。共通して描いているのは、イエスが、ペトロとヤコブ、その兄弟ヨハネを伴って高い山に登り、弟子たちの見ている前でまばゆいばかりの姿に変わったといふ出来事です。ルカ福音書によりますと、イエスが、その場で、来るべき受難について、モーセとエリアと語り合ったと記しています。

イエスの変容の記事の主な目的は、使徒たちに、そして私たちに対して、イエスご自分の命を犠牲にする十字架への道が、栄光への道であることを示すことです。イエスの変容は、イエスの十字架の苦難が、復活による勝利に至ることを表しているのです。

ところで、私は仏教国であるミャンマーから来ました。幼少の頃から、私はブツダの教えに影響を受けてきました。私が学んだことを少しお話ししたいと思います。

仏教では、人生についてさまざまな真理を説いています。三つの真理について考えてみましょう。第一の真理は、「人生は苦しみ (Pali:dukkha) である」というものです。たしかに人生は苦しみです。

私たちの周りの状況を見れば、人生が苦しみであることを示す事例はいくらでもあげることができます。病院では、痛みや病気に苦しんでいるたくさんの患者さんを見かけます。愛する人を失った悲しみの叫びが聞こえてきます。人の話に耳を傾けると、ひとびとが試練や困難、失敗に直面して苦しんでいるという話が聞こえてきます。仏教は、人生は苦しみに満ちていると教えています。

仏教が教える第二の真理は、「苦しみは欲望から来る」ということです。多くの方が不幸になるのは、欲望や欲求が満たされないからです。例えば、ある人は新しい車や家を買いたいと思っていますがそのためのお金がないので苦しむのです。また、あるひとは仕事で新しいポジションを得たいと願いますが、実現しないので苦しむのです。私たちは皆、このような欲望や欲求を満たすために懸命に働いています。それが満たされないで、苦しむのではないのでしょうか？

何年か前に、大きな漁業の会社を営む方と話をする機会がありました。その方は、まだ貧しかった頃、あれも欲しい、これも欲しいといろいろなものを手に入れたと思っていたそうです。しかし、お金ができると、今まで手に入れたものが欲しくなくなったそうです。あれほど欲しいと思っていたものがほしくなくなったのですから、あまり幸せではなかったそうです。

第三の真理は、苦しみの反対である「幸福への道は、すべての欲望を取り除くことである」という考えです。私たちは自分自身にこう問いかけなければなりません。私の苦しみの原因は何なのか？ ほとんどの場合、それは私たちが欲しいものが手に入れないことです。ですからお釈迦様は、幸せになるためには、欲望から自分を解放することだとアドバイスしました。

今日の福音は、イエス・キリストが十字架の苦難の道を歩まれるが、それは復活の栄光への道に至ることを教えています。この福音は私たちに自分の人生を振り返らせるものでもあります。今日の福音は、人生を送るために大切なことを教えてくれています。私は今日の福音から、私たちの人生にとって大切な2つのことを提案したいと思います。一つ目は、**私たちの霊的な必要性に目を向ける**ことです。私たちの欲望や欲求はどんどん大きくなっていますが、魂は栄養失調になっています。私たちはあまりにも、物質的なもの、世俗的なものに執着しているのではないのでしょうか。時には物質的なものの奴隷になっていないのでしょうか。

物質的なものは私たちのためにありますが、私たちはそれらのものを手に入れるために生きているのではないことを忘れてはいけません。

二つ目は、私たちは自分の霊的生活を見つめ直す必要があります。私たちは、今日の福音書に出てくる聖ペテロのように、イエスが歩まれる十字架と復活の道が理解できないうで、ただ動きまわる行動的な人間になっているかもしれません。聖ペテロはイエスとモーセ、エリヤのために仮小屋を3つ建てようとしていました。しかし、イエスは彼を止めました。つまり、私たちが人生の目的を見失い、**仕事、仕事、仕事**の生涯では十分ではないことを教えています。私たちは、祈り、観想、礼拝でイエスが歩まれた十字架の苦難の道と復活の道を思い起こす時間、霊的なものを満たす時間が必要なのです。例えば、私たちは毎日、神の言葉を読み、神のみ心を尋ねながら内省するときが必要なのです。一方、十字架に表れた神の愛に答える慈善活動もしなければなりません。他人を助けることは神の道であり、神の願いです。

最後に、仏教の教えと異なるキリストの重要な教えに注目しましょう。私たちのすべての苦しみ (dukkha) には意味があるということです。私たちは、キリストの十字架の苦しみに参加する行為として、この世の苦しみを知り、向き合うことが求められています。キリストは私たち罪人に対する愛のゆえに、十字架上で苦しむ道を選ばれたのです。そのキリストに従う私たちにとって苦しみは神からの与えられた課題、チャレンジです。

私たちが喜びを感じるのが当たり前であると考えるように、問題や苦しみも私たちの人生の一部なのです。

この四旬節の第二日曜日、イエス・キリストの十字架の苦しみを黙想して祈りましょう。私たちの人生にはどのような使命が与えられているのでしょうか。私たちの苦しみにはどのような意味があるのでしょうか。また、世界の救いのために、イエス様とともに私たちに与えられた苦しみになって歩むことができるように祈りましょう。

lazin nau san vincent (pime)